

令和4年度きのくにコミュニティスクール座談会（九度山町）

日時：令和5年1月23日（月）13：30～15：30

会場：九度山町 中央公民館 大会議場

参加者：19名（校長3名 教頭3名 学校運営協議会委員6名 共育コーディネーター1名
家庭教育支援員1名 市町村行政職員5名）

テーマ：「当事者として関わるCS」

講師：和歌山県CSマイスター 大谷 裕美子 氏 岡本 公博 氏

1 交流（情報共有・質疑応答）

- ・参加者を2グループに分け、CSマイスターを交え各学校運営協議会の取組等の情報共有及びCSマイスターへの質問



○ 情報共有

- ・ボランティアの方が楽しみながら活動している。（やらされてる感のないよう意識して進めている。）
- ・学校側からの情報発信が多く助かっている。（信頼関係の構築）
- ・学校（教職員）は異動があるが、地域は変わらないので、各会議等において地域側が中心となり進めている。
- ・PTAの協力・参加が難しいので、カフェ（保護者が顔を合わせられる場）を取り入れたい。
- ・地域は助けを求められるとうれしい。教職員の多忙感を考慮し、学校からのニーズがあるまで自分たちからは動かないようにしている。
- ・教員は多忙であるため、地域との連携・協力が必要。
- ・教職員の意見を引き出すため、地域が歩み寄りなくてはならない。

Q. 質疑応答

- Q、ボランティアの協力はいただいているが、細かいもの（休み中の水やり等）は管理職が行っていることが大変負担である。
- A、コーディネーターがいれば、細かなことも地域とつないでくれる。各学校に常駐のコーディネーターを配置することが理想。
- Q、学校運営協議会の回数について
- A、年間5、6回がベスト。学校運営協議会委員への報酬を年度払いにするとよい。部会を作ると小回りが利く。
- Q、家庭教育支援との関わりについて
- A、不登校児童・生徒の支援。

Q, 教職員との関わりについて

A, 学校運営協議会にオブザーバーとして参加してもらう。学校運営協議会委員の写真を校内に掲示してもらう。

Q, 人材について

A, 忙しいからこそ、人とのつながりが大切。まずは「一緒にしませんか？」等の声掛けが大切。間接的な関わりもOK。PTAについては、まずは子供連れの参加者として、一緒に活動してくれるかを見極める。

Q, 中学生と連携・協働した活動について（地域の各種団体の悩み）

A, 地域からの募集を学校にしてもらう。（その他は地域側主体で）

子供と地域の話し合いは、放課後に生徒会と行う。

最初は授業と絡めた活動、その後、発展的活動として地域での活躍の場を紹介する。

地域学校協働活動本部に子供を入れ、意見を取り入れているところもある。

Q, 子供との関わり方について

A, 地域のことを伝えるなど、できることから始めていく。

子供に一方的に手伝いをさせるなど、便利使いはダメ。

子供と関わった大人に対し「これをする事で、子供達がこんなことをできるようになったのはあなたのおかげです。」と伝えるなど感謝の気持ちを伝えることが大切。



☆学校運営協議会で学校の現状（具体的な困りごと）を地域側にしっかりと伝えることが大切！
「やってください。」ではなく、「今、〇〇に困っています。」等、地域側がやらされてる感ではなく、自主的に活動してもらえようように伝える。

2 参加者感想（一部抜粋）

- ・具体的に進めていくポイントを伺うことができ、大変勉強になった。
- ・いろいろな立場でのお話が聞けて有意義だった。マイスターの先生からは、CSを進める上で大切なことをたくさん教えていただいた。教員は困っていることを伝え、助けてもらったことにしっかり感謝の気持ちを持ち、伝えることが大切だと分かった。お互いウィンウィンになることがポイントだと感じた。人と人がつながることで、お互いに良い関係を作っていくことが重要だと思った。
- ・Q&A形式でCSマイスターの先生からいろいろ教えていただき参考になった。もう少し時間があればよかった。地域の人間関係づくり、とても大事だと思った。
- ・久々に付箋を使い意見交換できたこと、ありがとうございます。原点に戻り、もう一度取組を振り返り、次年度に反映できればと思う。
- ・学校運営協議会委員としての仕事、関わりを再確認できた。私たちの活動が教職員の負担にならないように注意したい。学校行事への地域のサポートが教職員に喜ばれるものであってほしい。
- ・地域、学校に負担感が出ているのではと考えていたところに、解決の糸口をいただいた。人材の集まる機会、それぞれの思い、目的を共有することが大事かと考えさせられた。
- ・具体的な話し合いができた。マイスターが丁寧に説明してくれた。
- ・より多くの出会い、知り合いになることがすべての出発点。